

八郎潟町教育委員会では、開かれた教育行政の実現に向けて、次のとおり、平成27年度教育委員会評価をまとめ、平成28年9月町議会定例会へ提出します。

### 教育委員会評価の実施について

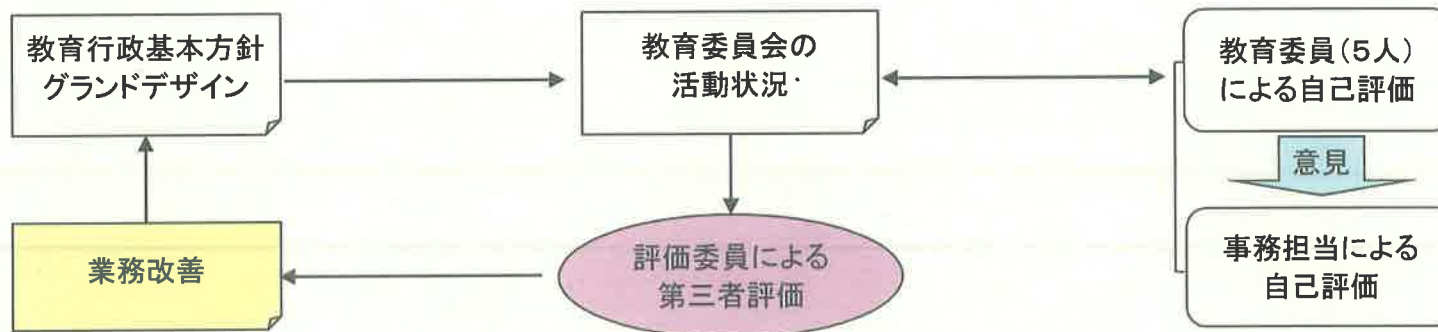
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成20年4月施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

#### 八郎潟町における評価の実施



#### 評価計画

3月	（自己評価の集計、まとめ）【教育委員及び事務担当の自己評価は2月中に実施】 ※達成度の評価基準 A；よく達成できた B；達成できた C；達成できなかった
4月	第1回委員会（概要説明，評価方法の説明）
6月	第2回委員会（教育委員会活動及びグランドデザイン重点施策についての評価）
7月	第3回委員会（評価結果の確認）
9月	評価結果を9月議会へ提出
10月	評価結果の公表（ホームページで）

◆教育委員会

事業名	事業内容	教育委員自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
総合教育会議	大綱（教育行政基本構想）の作成	A	行政トップとの共通認識を持つことができるとともに、第6次総合計画の中に教育振興の大綱、今後の目標、教育を行うための諸条件の整備などを確認できた	教育委員会と首長が、共通認識をもちながら教育行政を進めることで、スピード感のある施策の推進が期待できる
教育委員会の年間活動計画	定例会の開催 （事務局との連携及び運営上の工夫等を含む）	A	事前の資料配付により、スムーズに審議を行うことができるとともに、深まりのある話し合いができています	実りある話し合いができています
	教育行政の運営に関する一般方針を定めること	A	教育行政基本方針が国・県の指針及び本町の基本構想の実現に則するように定められている グランドデザインを示すことで、方針が明確で分かりやすい	定めた方針を周知し、実践していることを検証してほしい
	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	B	十分な時間をかけての審議が行われているが、もう少し事前に資料を検討できればと思う	内容が多岐にわたるので、通年で資料を積み重ねるなど整理して進めてほしい
	教育委員会規則の制定又は改廃をすること	B	時宜にあった制定・改廃である 委員自身が規則等について、もう少し認識を深めたい	将来のビジョンをもって取り組んでほしい
	各種委員会委員の任命及び委嘱	A	知識や専門性豊かな方々が選任されている 委員出席の任命書・委嘱書交付は各種委員の意識付けになっている	適切である
	教育委員研修	A	教育の現状に対して常に問題意識を持つことが大切であり、今後も委員同士の共通認識を確認できる研修にし、時代の要請に応えていきたい	研修したことを今後の活動に生かしてほしい
学校訪問 （計画訪問、指導主事訪問、授業参観、部活動・スポーツ少年団訪問、施設訪問など）	A	各機会をとおして、教育環境、園児・児童生徒の実態、施設の活用など、教育現場の実態を把握するよい機会である	年間を通してよく実施されている	

## ◆学校教育

1 確かな学力を育む  
4 実践力を育てる

2 豊かな人間性を培う

3 健康の維持と体力の向上を図る

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
八郎潟町学校評価システムの実践	学校教育の重点事項（知、徳、体に関する共通課題）について評価する	B	町の学校教育の重点を盛り込んで、実態を考慮した目標を各学校・園で設定し、年間をPDC1A C2サイクルで実践し、自己評価と外部評価を行い学校運営の改善を図っている 学校評議員に外部評価をお願いしている	内部・外部評価が各学校・園から情報発信されており、改善の姿勢が見られる
幼・保・小・中の連携	幼稚園、保育園、小学校の交流会 小学校と中学校の連携教育を推進する	B	幼稚園、保育園、小学校の交流会を年7回実施 乗り入れ授業の実践など、小学校と中学校の連携を図るとともに 接続の在り方を研究している	園児・児童・生徒が意欲的に取り組めるよう計画・実践されていることを評価する
教育振興大会	八郎潟町立学校に勤務する職員と教育諸団体が一堂に会し、資質向上を図る	A	教育関係者79名の参加があった 幼稚園からの実践研究発表と石井清人氏から「ユーラシア大陸2万キロ 世界を見る」と題して御講演をいただいた	町内在住の講師による貴重な体験発表を拝聴できるよい内容の企画である
安全・安心フォーラム	安全・安心な町づくりを目指し、関係機関の実践結果と課題を検証する	A	八P連主催で行う「安全・安心フォーラム」への後援と補助を行う 第11回「安全・安心フォーラム」では「食の安全・安心」を考える内容で実施した 活動費として8万円を補助している	時宜にかなったテーマをもって継続されていることを評価する
学校支援サポーターの配置 (小6名、幼3名)	支援を要する子どもの学習支援及び生活面をサポートする	B	支援を要する園児・児童への対応及び幼児教育充実のため、臨時的任用職員を小学校に6名、幼稚園に3名配置し、教育支援委員会での提言を生かすよう努めている	事業の定着が教諭やサポーターの意識の向上に結び付いている
幼稚園預かり保育事業	預かり保育時間を午後6時までとする	A	3～5歳までの全園児を対象に、希望者を午後6時までの預かり保育を実施している さらに、要望の強かった春季休業期間の保育について条例改正を行った	試行を経て条例改正に至ったことは評価できる
外国語活動サポーター事業	小学校新学習指導要領に示された小学5・6年生の外国語（英語）活動をサポートする	B	平成21年度から英語活動を教育課程に組み入れ、英語活動サポーター1名を配置している 担任教師とのTT授業を実践しており、学習活動の工夫改善を重ねることで、年々成果を上げてきている	小学校における英語教育の変遷に応じた学習活動に深まっていくことを期待したい

英語指導助手	地域の人材を活用し、子どもたちと密着した学習活動を展開する	A	6年目になる英語指導助手は、熱心に指導方法や教材を研究しており、職務に取り組む姿勢が大変優れている 地域にも融け込み、自らの体験談を生かした活動も行っており、周囲とのコミュニケーションも十二分にとられている 国際性を育む教育にさらなる充実がみられる	適切である
メール配信事業	緊急時情報などを保護者の携帯電話やパソコンに速やかに連絡できるメール配信システムを導入する	A	平成24年度から導入している本事業については、ほぼ全ての世帯で登録している 緊急時等の情報伝達に大いに役立っている	現代社会において適切である
学校給食費助成事業	町内に住所を有する児童生徒の保護者を対象に、教育の充実及び子育て支援を目的として、給食費を助成する	B	平成25年度から町内在住で区域外就学の保護者にも助成を行っている 学校給食費の全額を助成することで、保護者の経済的負担軽減に寄与している	保護者にとっては大変ありがたい施策である
子ども・子育て支援事業	平成26年度に策定した子ども・子育て支援事業計画の実施	B	子ども・子育て支援事業について、進捗状況を点検しながら福祉課と連絡・調整を図っている	丹念な現状把握をお願いしたい
小学校樹木剪定事業	樹木が伸びて電線等に支障となっているため剪定を行う	B	障害枝となっているケヤキの剪定並びに良好な開花を保つため桜の剪定を行った	適切である
小学校校舎床洗浄ワックス・絨毯清掃事業	小学校の教室及び廊下の床・絨毯の清掃、ワックス塗布を行う	B	小学校の教室及び廊下の床・絨毯の清掃、ワックス塗布などを行った 隔年実施としている	適切である
小学校地下貯蔵タンク内部コーティング事業	重油貯蔵タンクからの流出防止のため、内部コーティングを行う	A	危険物に関する規則改正に伴い、早期に流出防止策を講じる必要があったため、設置後相当の年数が経過している地下タンクの内部にコーティング処置及び液面計の設置を実施した	規則改正に伴い、予算化して実施できたことは何よりである
中学校校舎床洗浄ワックス・絨毯清掃事業	中学校の教室及び廊下の床・絨毯の清掃、ワックス塗布を行う	B	中学校の教室及び廊下の床・絨毯の清掃、ワックス塗布などを行った 隔年実施としている	適切である
中学校体育館西側外壁補修事業	中学校の体育館西側外壁が剥離しているため補修を行う	B	中学校体育館の西側外壁が前年度に剥離したため、外壁材張替を行った 安価材料を使用し、止水対策も併せて実施した	適切である

## ◆社会教育

- 1 学習機会の充実    2 家庭教育の支援    3 芸術文化の振興    4 文化財の保護と継承  
5 図書館機能の充実

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
放課後子ども教室推進事業	放課後や長期休業中に小学校の教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ活動の場を提供する	B	教員免許を有している指導者を2人配置して、放課後に小学校の空き教室を活用し、学習会を年101回実施、49人の児童が参加している 夏季・冬季休業中の検定学習会には合わせて19人の児童が参加できた 体験活動では、町ヨット協会会員を指導者をお願いして、ヨット教室を開催している 本事業は、子供の減少に伴って参加者が年々減少傾向にあるが、創意工夫しながら継続していきたい	参加人数の多い少ないにとらわれることなく、内容を工夫しながら継続してほしい
やすらぎ交流会	高齢者が生きがいをもち、仲間づくりと楽しい老後生活を送れるよう、講演会、移動学習、交流会を開催する	B	今年度の会員数は37名、5月から2月まで10回の学習会を実施できた 移動学習は3回のうち1回を希望の強かった「リンゴ刈り」をの宿泊研修、また、施設見学では、男鹿市の石油備蓄基地を見学する機会を得た その他の学習会は、健康体操などの身体を動かす学習を多くしたが、内容にマンネリ化もあるため次年度の検討課題としたい	参加を促すための内容と工夫に今後も努めてほしい
観劇の集い	優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う	A	今年度は、数年続いた「康楽館」を変更し田沢湖芸術村「わらび座」への観劇を行った 秋田県出身の「成田為三」のミュージカルだったことと募集時期を7月としたこともあり、例年より10人程の増となった	参加者が少なくても継続してほしい事業である
新聞活用セミナー	新聞活用=NIEが言語力の育成に効果的であるという認識から、新聞の読み方、新聞作り、比較読みなどを行う	A	今年度は、地元の新聞販売店を通じて近隣町村に周知した結果、参加者親子6組13人の参加増となった 新聞を通して、親子のコミュニケーションもとれ、楽しく学べて参加してよかったと好評である	とてもよい事業として評価する
成人式	大人になったことを自覚する機会を提供し、その前途を祝福する	B	8月15日、対象者62人中54人の参加者があり、9割近くの参加率だった 式典終了後、音楽プロデューサー 大間ジロー 氏の講演会を開催、新成人はドラムや見知らぬ楽器に触れる体験があるなど、例年とは少し違った参加型の楽しい講演会となった 案内は慣例により県外在住の八中卒業生にも送付している	恒例の事業であるが、毎年工夫しながら継続してほしい

第33回 子ども会盆踊り大会	県指定文化財「一日市盆踊」への参加を促進し、後継者の育成を図る	A	10団体140名の参加があり、積極的な参加で一日市盆踊の盛り上げに一役かっている	伝統文化継承のためにも、是非継続してほしい 故郷を知るよい機会にもなっている
秋田県青少年劇場	小・中学生向けの優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養を図る 演劇・音楽公演から、いずれかを選択し、今年度は中学生を対象に「ミニコンサート」を開催	B	9月11日、改善センターにおいて「中村均一&玉井美子サクソフォンとピアノコンサート」を開催、人数制限があったので対象を中学校全生徒と教職員とした 中村、玉井両氏の演奏の合間に多種多様な楽器紹介や生徒に演奏させるなどのパフォーマンスもあり、後日のアンケートからは、「有意義だった」「楽しかった」が大半を占めた	適切である
歴史文化財探訪	増田の蔵は町の中に70以上も密集していることで、全国的にも珍しく、国の重要伝統的建造物群保存地域に剪定されている 今回、それを見学することで、昔秋田の豪商がどのようなものであったかに触れてみる	A	「増田の蔵」見学を9月3日に実施、町民の人气が高く、20人の募集に23人の応募があったので、地元ガイドを増やし、少人数での細やかな説明を受けることができ好評価となった 次年度からも多くの町民が県内の歴史遺産に触れることができるように、情報の収集に努めたい	新たな視点での事業は評価できる 地元のこともお願したい
第55回 産業・芸術文化祭	芸術文化に触れる機会を提供し、住民の創造性の高揚と文化的風土づくりを進め、文化の振興を図る	B	2週に分けて開催していた文化祭は、「はちパル」が完成し、会場が整うということで、10月24～25日の2日間で開催した展示部門を「はちパル」で、カラオケ及び舞台発表は改善センターで行った 初めての会場となった「はちパル」での展示はスペースの取り方に苦慮したこともあり、次年度の検討課題としている	展示のしかたを工夫し、次年度も同じ日程で開催してほしい
新春書初め会	生涯にわたり書を愛好する豊かな心情を養う	B	新春を迎えるに当たり、気持ちを新たにして、書き初めに挑戦する機会を提供している 1月5日「はちパル」を会場に、来館者の見ている中での書き初めとなった 小学生7名、中学生3名、一般8名と参加者が年々減少していることが課題である	少しの人数でも継続してほしい事業である
合同厄払還暦祝	人生の節目に当たる厄払・還暦を祝う	B	2月の第1土曜日開催の合同厄祓・還暦祝いを6日改善センターで開催、昨年と同じ150人程の参加となった 慣例により、町外在住の八中卒業生にも案内を送付しているが、住所の把握に苦慮していることが課題となっている	節目の行事として、継続して開催してほしい
趣味講座	個人の要望、社会の要請に応じた各種趣味講座を開催する	A	町の生涯学習奨励員の多様な知識や技術を持っている方々に講師を依頼して町民のニーズに応えた講座を開催し、参加者は大きな満足感を得ている 特に、美文字講座は大変好評で、毎年の継続を懇願されている	適切である

学校支援地域本部事業	小・中学生に対して，学校・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備する	A	「総合的な学習の時間」や「正課クラブ」などの小・中学校の学習活動支援のため，専門知識や技術をもつ地域の方々に指導をお願いしている 運用の仕方は各学校が計画し，指導者への謝礼金は教育委員会が予算化している 新規に始める学習活動の分野への指導者確保について，積極的に取り組んでいかなければならない	ふるさと教育推進のためにも，地域人材の発掘に努めてほしい
図書貸出事業	新刊図書の購入，県立図書館との相互貸借事業と図書整理を行い，町民の読書意欲を促す	A	平成27年5月に新図書館がオープンし，オープン初年度としての図書館整備や運営のための新刊図書購入は順調に進み，利用者数，貸出数も順調な伸びを示している 図書館独自の企画も毎月のテーマに沿った本の展示のほか，8月からは2ヶ月ごとにお話し会を開催するなどして利用促進に努めている 県立図書館との連携については，個人利用者に対する相互貸借や大活字本・参考図書などのセット貸出制度を活用し，積極的に行っている 11月から図書館ボランティアの活動も開始されている	初年度，順調な運営で進められており，今後も利用者が気持ちよく活用できる図書館運営に努めてほしい
後継者育成事業	県指定無形民俗文化財の願人踊，一日市盆踊，地域の伝統芸能「秋田音頭」の後継者育成を支援する	A	願人踊・一日市盆踊・秋田音頭の保存団体である一日市郷土芸術研究会へ運営費として補助金を交付している 保存団体は，町の児童生徒へ民俗芸能を指導し伝承している 伝統芸能を継承していくことは，かなりの努力と困難さを要するので，今後も保存団体に活動しやすい環境を整えていきたい	参加している子供たちは，楽しく誇りをもって活動できている
文化財保存事業	町指定文化財の保存とNPO法人「浦城の歴史を伝える会」への業務委託	B	県指定無形文化財「願人踊」を国の指定を受けるため，くらしき作陽大学客員教授田中英機氏から年2回の現地調査に来ていただくなど，今後も国指定に向けての継続事業としていきたい 浦城の歴史を伝える会は，浦城址に設置している仮設トイレを管理している 町文化財審議委員会を通じて教育委員会へ答申された小池板碑群の風化防止対策については，今後も引き続き検討していく	ツアーの実施など，少しずつ見える形になってきているので，引き続き周知の機会を作って推進してほしい 文化財保護には，より予算を充実させる必要がある
歴史文化財振興事業	八郎潟町地域史料館の管理運営	B	八郎潟町地域史料館運営委員会を指定管理者に指定し，管理運営を行っている 5月～10月までの開館で，貴重な出土品などの資料が展示されている	管理運営はよく行われているが，地域史料館のPRがもっと必要ではないか

## ◆社会体育

- 1 町民総参加の各種大会と教室                      2 スポーツ団体の育成と指導者の養成  
 3 学校体育施設やオリンピック記念会館などの体育施設の開放      4 総合型地域スポーツクラブの充実と普及

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
町民体育館夜間開放 （毎週土曜日）	毎週土曜日に夜間開放し、町民に運動に親しむ場所を提供する	B	施設を開放し、日常生活の中にスポーツを普及させることを目標としているが、現状は継続的に運動をしている団体の利用が多い今後、全町スポーツ大会に参加する町民を増やす工夫を重ね、体育施設開放時には、多くの町民が身体を動かすために来館できるよう努めたい	利用しやすい施設として、多くの方々の利用を促してほしい
スポーツ少年団結団式	スポーツ少年団員と指導者が集い決意を新たに励み合う機会とする	B	4月に新団員を含んだ団員総勢148名の結団式を開催した1年間仲間と共に励まし協力することを誓い、決意を新たにスタートすることができた	団それぞれが町を代表する組織という意識を共有することは意義がある
B & Gの運用 （6月15日～ 9月15日）	B & G海洋センタープールを開館し、全町民に開放して水に親しむ機会を提供する	B	昨年を上回る利用者数を目標にしたが、6,809人から5,289人と1,520人減少した 夏休み中、小学生が「はちパル」を多く利用した分、減少につながっているため、PRの仕方を工夫して利用者増に努めたい	利用者にラジオ体操カードのようなものを活用し、特典などを与える工夫があってもいいのではないかと
水泳教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	A	水泳教室を4日間（8回）実施 Aコース30名に対し30名の応募、Bコース30名に対し20名の応募があった 指導者4名の丁寧な指導により、泳ぐことができるようになった児童の満足顔と努力を称賛したい	継続してほしい
ヨット、カヌー教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	B	ヨット教室を2日間実施 10名程度の参加予定だったが、スポ少の大会と重なり3名の参加だけとなってしまった 今後、教室開催時期を大会時期と重ならないように検討し、多くの児童が参加できるように工夫したい	貴重な体験ができる事業なので、継続してほしい
	グラウンドゴルフ大会	A	年々参加町内が増加している（16町内） 大会開催にあたり、グラウンドゴルフ協会やスポーツ推進委員の協力のもと、スムーズな大会運営ができた	参加者が増えつつある種目なので、健康増進のためにも継続してほしい
	ラージボール卓球大会	B	大会要項を見直しして実施した結果、参加町内が4町内増えた 大会開催にあたり、卓球協会やスポーツ推進委員の協力のもとにスムーズに大会運営を進めることができた 今後もさらに参加町内が増えるよう努めていきたい	要項の見直しは評価できる



全町スポーツ大会	家庭バレーボール大会	B	参加町内の増加を図り、大会要項を見直し（年齢のことなど）して臨んだが、昨年と同数の参加だった 日数を要するので、バレーボール協会やスポーツ推進委員からの多大なる協力がないとスムーズな運営ができないので、連携を密にして大会を盛り上げていきたい	町内参加者でコミュニティのとれる大会なので、参加町内増を目指してほしい
	ビーチバレーボール大会	B	要項を見直しして大会運営に臨んだ結果、一般の部、女子の部共に参加町内が増加した バレーボール協会とスポーツ推進委員の協力で、例年とは違った穏やかな天候の中、和気藹々とゲームを楽しむことができた	今後も継続してほしい
	ディスコン大会	B	昨年は5町内8チームの参加だったので、今年度は、それ以上を目標に募集を進めたところ、7町内12チームで開催することができた 小学生から一般までの対戦で交流を深めることができた	幅広い年齢に対応できるスポーツなので、今後も継続してほしい
スポーツフェスティバル	全町民に各種スポーツやレクリエーションスポーツに触れる機会を提供する	A	フェスティバルは、体育協会が主催する全町民を対象としたレクリエーションやなわとび大会を実施するものである 幼児から一般まで多くの町民が参加して成功裡に終わることができた 大会では、数種目に新記録が出るなど子供たちには、大いに励みになった 今後も多くの町民が参加できるような企画運営に努めたい	参加者数も年々増えてきており、記録への挑戦も励みになっている 今後も継続してほしい
全県ゲートボール大会	弁天球場を会場に、県内60チームの参加を募り、大会を開催する	B	他の市町村開催での大会と重なり、昨年度同様15チームの参加にとどまった 来年度は、ゲートボール協会と大会時期などの確認・連絡を密にして参加チームの拡大につなげたい	他地域との連絡調整を図り、できるだけ多くのチームが参加できる態勢を築いてほしい
表彰式 スポーツ講演会	一年間のスポーツ大会の成績に対し、功労賞、特別賞、栄光賞、奨励賞を与え表彰する	A	体育協会主催で表彰式、スポーツ講演会を2月13日に実施 講師に秋田テレビ株式会社常務取締役 石塚真人 氏をお迎えして御講演をいただいた 今年度は体協創立45周年の節目であり、記念誌を発行した	受賞者にとって励みになるよう、引き続き継続してほしい
総合型地域スポーツクラブの推進	27年度事業計画に基づいて活動する	A	県総合型クラブ連絡協議会主催、八郎潟町総合型スポーツクラブ主管で、県央地区スポーツクラブ交流会ミニテニス、グラウンドゴルフ競技が本町を会場に開催された あいにくの悪天候をものともせず、プレーを楽しむことができた 52名参加のミニテニスでは技量差を考慮するなどした進め方で時折でる好プレー・珍プレーに会場は大いに賑わった お菓子、果物、飲み物が用意され、休憩を兼ねながら会員同士の交流を図ることができた	雨模様だったが、参加者は元気に汗を流し、親睦も深めることができていたので、発展していくことを期待したい

<p>チャレンジデー</p>	<p>全国一斉に、毎年5月の最終水曜日実施される住民参加型のイベントで、人口規模の同じ自治体同士が、15分以上継続して運動した住民の参加率を競う内容となっている</p>	<p>A</p>	<p>目標参加率を40%に掲げたが、町内会長等による地域訪問PR活動が功を奏し、目標を大きく上回る62.8%の参加率を得ることができた 2度目の参加ということで、町広報誌を活用したPR活動、町内会での周知を行ったことから、認知度を上げることができた 来年度も町内会やスポーツ団体と連絡を密にした取り組みで、参加率を上昇させたい</p>	<p>町内会や企業・団体に働きかけ、協力いただいた取組は適切である</p>
<p>ふるさとあきたラン (全州市町村対抗駅伝大会)</p>	<p>県が全市町村に呼びかけて行われる大会である 第2回目は横手市で開催された</p>	<p>A</p>	<p>上位入賞を目標に取り組んだが、総合で28位、市町村別では、6位という結果だった 小学生から一般までの選手は精一杯頑張ってくれたので、その健闘ぶりを称えたい</p>	<p>本地域は、陸上競技についての意識が高いとは言えないので、参加選手の健闘ぶりを称賛してほしい</p>